

琉球大学学術リポジトリ

デジタルファーム・ミニシンポジウムの開催に当たって

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 泉, 裕巳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015549

デージファーム・ミニシンポジウムの開催に当たって

沖縄農業研究会 会長 泉 裕 巳

21世紀はITの時代とも言われ、私たちの生活や産業形態を大きく変える新しい技術が次々と産み出されております。沖縄県はIT産業の振興を政策の柱として掲げ、その推進に取り組んでおります。ITは農業を変え得る能力をもっており、言い換えると農業こそIT展開の大きな可能性を秘めています。欧米で強力に推進されている“精密農業”はIT農業の一形態であり、わが国でも“日本型精密農業”に関する研究が国や県で推進されています。沖縄では、8年前に始まったサトウキビの品質取引制度と品質評価に利用されているNIRがIT化の端緒を開いたと言えます。この中で、沖縄農業研究会ではいち早くIT農業の重要性と可能性に注目し、“デージファーム”を提唱して、その展開と普及に尽力して参りました。

IT農業の展開において、“21世紀の光”と呼ばれるNIRとGIS（地理情報システム）は最も有効なツールとなります。NIRは多くの分野で利用され、とりわけ、農産物の品質評価への利用が急速に進みつつあります。かんきつ類では選果場にNIRが導入され、1個ずつ糖度や酸度などの品質測定を行っております。これから得られる膨大なデータを農家にフィードバックして、品質向上や営農改善に活用したいという機運が芽生え、主要産地において研究が開始されております。これを実現するためには、NIRでデータを効率的に集め、GISでマッピング・解析して生産管理や営農に役立つ情報に

変換し農家に提供する基本システムが必要になります。このシステムは、すべての作目、地域に適用できる一般的なシステムとして展開できる可能性をもっております。昨年来、このような志向をもつ県外の研究者と意見交換を行ってまいりました。今回、沖縄を訪問される機会がありましたので、デージファーム・ミニシンポを企画しました。

農業は、おいしく安心して食べられる食料を、人々に安定的に供給することを第一の目的としていることは申すまでもありません。これに照らせば、土壌、作物、気象、市場などに関する情報の収集・解析の重要性は明白です。21世紀も早や2年目を迎えておりますが、テロ事件や先の見えない不況だけでなく、セーフガード発動や狂牛病問題のように農業面でも大きな混迷が生じております。このような状況下では、正確な情報に基づいて考え・行動する農家こそが農業に新しい活路を切り拓くと言えます。すなわち、ITをベースとした知的営農の展開がこの混迷の時代に光明を見出す鍵となります。

今回のミニシンポは、サトウキビ、パイナップル、果樹、園芸と栽培作目が豊富で、沖縄県でも有数の農業地帯であるやんばるで開催することになりました。参加者全員で知恵を出し合い、IT化した知的営農の実現とやんばる農業の発展に少しでも貢献することをねらいとしております。ご多用の折とは存じますが、是非とも参加いただきますようお願い申し上げます。